

男性の下着に関する意識と実態 (第1報)

○ 長野智子* 川田千恵* 高野倉睦子* 小林茂雄**

(* 昭和学院短大, ** 共立女大)

〈目 的〉

豊富な情報や経済の発達により衣生活は多様化しており、この影響は下着の着用意識に関しても及んでいる。すなわち、本来下着が持つ保健衛生的機能に加えて、現在の下着にはファッション性が要求され、この傾向は女性用ばかりでなく男性用下着にも志向されている。そこで本報では、20歳から50歳の男性を対象に下着に関する着用意識や服装に関する規範意識と下着の着衣の実態を調査し、年代別に比較検討した。

〈調査方法〉

東京近郊在住の成人男性で年代別に合計268名、(20代:70名、30代:73名、40代:74名、50~60代:51名)を対象とし、配票留置法により1995年10月にアンケート調査を実施した。調査内容は、下着の着用意識に関する22項目、服装の規範意識に関する19項目、下着の着衣実態に関する10項目である。

〈結 果〉

夏期と冬期の季節別に、それぞれ家庭と職場(学校)での下着の着用状況を調査した結果、上衣では夏期において職場(学校)でのランニング着用者が年齢の上昇とともに増加した。下衣では冬期において家庭と職場(学校)双方ともロングパンツの着用者が、年齢の上昇とともに増加した。 X^2 検定より下着の着用意識は、22項目中19項目について危険率1%で4世代間に有意差が認められた。下着の着用意識と規範意識の関係では、規範意識が低い世代ほど下着としてTシャツを着ることを好む傾向にあることが明らかとなった。